

令和4年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市老人福祉センター仲本荘
(2)施設概要	<p>①所在地 さいたま市浦和区東仲町28-15</p> <p>②施設の設置目的 高齢者に対して各種の相談に応ずるとともに、健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与する。</p> <p>③施設の概要 開設年月:平成23年5月 構 造:鉄筋コンクリート造 2階建(仲本児童センター併設) 主な施設:コミュニティホール、カルチャールーム、ミーティングルーム</p>
(3)指定管理者	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団
(4)指定期間、指定管理料	<p>①指定期間 平成31年4月1日～令和6年3月31日</p> <p>②指定管理料 令和2年度 21,189千円 令和3年度 21,178千円 令和4年度 21,178千円</p>
(5)施設の管理運営の内容	<p>①運營業務の状況(利用状況含む)</p> <p>◇利用状況 ・利用者数 5,716人(前年度2,705人)</p> <p>◇業務実施状況 ・昨年度に引き続き、コロナ禍の対応として換気や消毒、参加者同士が距離を保ち活動できるよう事前予約制による人数制限をし、自主事業を展開した。主な事業として、体力維持や認知症予防、趣味・教養の場を提供し、健康で生きがいのある生活を送ることができるよう支援した。また、コロナ対策の変更に併せ、定員人数を随時検討し、利用者増加に努めた。予約が取りづらい事業については、午前と午後開催する等回数を増やして実施した。 ・利用者の要望を取り入れるため、年に数回アンケート等でニーズを把握し、要望に沿った事業を検討・実施した。 ・高齢者の生活を支援するためコロナ禍の対応として人数、時間制限をしたうえで各種相談の対応、クラブ活動の援助を図り、地域の高齢者の活動拠点として安心で、親しみのある施設づくりに努めた。さらに、地域との連携を図るため、地域懇談会を実施し、地区社協との合同事業等も開催した。</p> <p>②維持管理業務の状況 ・専門業者による消防法等の規定による建物・備品の点検のほか、職員による施設・設備の定期的な点検を行い記録に残した。指摘事項については迅速な対応を図った。 ・安全確保と効率的な施設管理に努め、防災備品の在庫にも留意し、緊急時の備えを再整備した。 ・職員及び利用者への節電・節水への意識を喚起しながら、経費節減を図り効率的な施設運営に努めた。</p> <p>③その他の業務 ・シニアサポートセンターとの協働による体力測定・健康相談、生活サポート相談、理学療法士による運動機能低下予防の助言・指導を実施した。 ・健康に関する講座、手工芸、脳トレに関する講座、教養に関する講座のほか、自治会行事の参加など地域とのつながりを意識した取り組みを積極的に行った。</p>

(6)収支状況	<p>①収入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用料金収入 7千円 (前年度 2千円)</li> <li>・受託事業等収入 110千円 (前年度 0円)</li> <li>・指定管理料 21,178千円 (前年度 21,178千円)</li> <li>・その他 1千円 (前年度 0円)</li> </ul> <p>②支出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人件費 14,379千円 (前年度 14,239千円)</li> <li>・事務費 421千円 (前年度 445千円)</li> <li>・施設管理費 2,242千円 (前年度 2,067千円)</li> <li>・事業費 274千円 (前年度 106千円)</li> <li>・繰入金支出 1,744千円 (前年度 1,744千円)</li> <li>・その他 0円 (前年度 0円)</li> </ul>
(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	<p>①「苦情解決体制制度」、②投書箱「みなさまの声」、③サービス向上担当者会議による「利用者アンケート」、④日々の窓口業務などを通じた利用者からの意見・要望の受付を継続して実施した。意見等への対応については、施設内に掲示し、わかりやすく周知した。また、利用者からいただいた意見を参考にして、各事業の内容の検討を随時行った。</p>
(8)その他	

## 2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
介護予防と健康づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、計画に沿った事業の実施が困難なものもあったが、「高齢福祉課所管市民利用施設に係る利用再開ガイドライン」に則り、少しでも多くの利用者様に安心して参加していただけるよう、感染防止対策に努めながら、事業を実施した。</li> <li>・シニアサポートセンター保健師・看護師による体力測定と健康相談、地域運動支援員による健康体操、外部講師によるヨガ講座を実施した。また、その他身体の健康に関する自主事業(「健康体操」「座ってリズム体操」「卓球」等)の実施により、健康づくりの支援を行った。</li> <li>・職員の資質向上と講座の充実を目指し、認知症予防や機能維持のための職場内外研修に参加した。</li> <li>・コロナ禍における身体機能の低下等を考慮し、健康の維持・増進を、無理なく継続できるような事業の見直しを行った。</li> </ul>
生きがいづくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者がコロナ禍においても自主的な生活を送ることができるよう、おりがみ・工作、卓球、映写会等、趣味的活動の支援を行った。</li> <li>・令和2年度から始めた浦和東部地区社会福祉協議会と共催で「地域の独居高齢者に箸袋を送る活動」の中で、利用者様に箸袋を折っていただき、利用するだけの施設から、施設の活動をサポートする側としてのやりがいに繋げる支援を今年度も行った。</li> <li>・団体への支援として活動場所や情報の提供をし、身近な地域の活動拠点となるよう努めた。併設の児童センターや近隣の保育園等の合同事業は、コロナ感染予防のため実施を見合わせた。</li> <li>・新規自主事業として「eスポーツ」を今年度より開始した。新規利用者も継続して参加している利用者も楽しめる内容を毎月実施している。</li> </ul>

<p>支え合う活力あるまちづくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全アドバイスや、防犯ポスターの掲示など安全に対する啓発を実施し、暮らしの中で起こりうる危機・リスクの回避とその対処を理解していただくよう努めた。</li> <li>・防災訓練を実施し、職員の防災意識の向上に努めた。</li> <li>・シニアサポートセンターと協働し健康相談や理学療法士による指導及び健康以外の生活サポート相談も行い、利用者一人ひとり気にかかることの相談に応じた。シニアサポートセンターをはじめ、自治会や関係機関等と地域支援会議や地域懇談会等を通して関係強化を図り、地域の中で利用者が安心して生活できるよう支援に努めた。</li> <li>・シニアサポートセンター、民生委員と共催でオレンジカフェを毎月開催し、認知症の人や家族を支える地域のつながりを深めた。</li> </ul>
<p>サービス向上計画の実施</p>	<p><b>【利用者の意見を反映する仕組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域懇談会の開催や地域支援会議などに参加し、情報交換と情報共有を図り直接施設に届きにくい利用者ニーズを把握しサービス向上に努めた。</li> <li>・利用者アンケートや「みなさまの声」を活用し利用者ニーズを汲み取り、より利用しやすい施設づくりに努めた。また、苦情解決体制により、利用者からの苦情・意見・要望を把握し、迅速・適切な対応に努めた。</li> <li>・利用者懇談会を実施し、利用者からの意見・要望を直接伺いニーズの把握に努め、次年度の事業計画に反映させた。</li> </ul> <p><b>【専門性の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老人福祉センター職員のレベルアップ研修として、高齢者福祉レクリエーション講習やアサーティブコミュニケーション講習などを受講した。今年度認知症サポーターキャラバン・メイト養成研修に参加をした職員が次年度シニアサポートセンターと共催で「認知サポーター養成講座」を実施予定である。</li> <li>・受講した研修の内容について伝達講習を中心とした職場内研修を実施した。</li> </ul>

### 3. 評価

#### (1) 指定管理者による評価

・コロナ禍において安心安全な施設運営を重視し、各事業に参加定員を設け予約制で事業を実施した。コロナの影響による体力低下や利用者様のニーズを反映した事業内容やサービスに取り組んだ。

・ゴミO運動などの自治会活動、地域ネットワーク会議への出席等、施設として地域と関わりを継続している。

・浦和区高齢介護課を通じて地域運動支援員との共催事業やシニアサポートセンターとの共催事業等を実施した。コロナ禍でも可能な限り関係機関との連携し、情報交換や支援の向上に努めた。

・新型コロナウイルス感染予防のため、併設する仲本児童センターや保育所との世代間交流事業は中止とした。

・法人内の老人福祉センターでは、実務担当者会議を開催し、情報交換及びコロナ禍における安全で効率的な施設運営のため情報共有を行った。また、職員の専門性の向上を図るため、「老人福祉センターレベルアップ研修」を行うとともに、職場内研修、伝達研修を実施した。

・法人内の老人福祉センター9施設合同で福祉基金にeスポーツを新規事業として提案し、各種機材を購入することができた。今年度始めた「チャレンジeスポーツ」は利用者の健康づくりや生きがいがづくり、初めてのことに挑戦するきっかけを担った。

#### (2) さいたま市の評価(評価担当課:福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価(B)※A~D

##### 1 項目別の評価

##### (1) 「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」に対する評価

・①「苦情解決体制制度」、②投書箱「みなさまの声」、③サービス向上担当者会議による「利用者アンケート」等、利用者からの意見・要望の受付を継続し、意見等は施設内にわかりやすく周知し、各事業の内容の検討を随時行ったことを評価した。

・地域懇談会の開催や地域支援会議などに参加し、情報交換と情報共有を図り直接施設に届きにくい利用者ニーズを把握しサービス向上に努めた点を評価した。

##### (2) 「経費の削減」に対する評価

・予算額と決算額との乖離が僅かであり、概ね適切であると評価した。(水道光熱費の高騰による影響は除く。)

##### (3) 「適正な管理運営の確保」に対する評価

・施設の日常・定期点検及び不良個所の修繕等を実施し、より良い施設環境の維持管理に努めた点を評価した。

#### (3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めて下さい。